

「2008年北京武術トーナメント」実施内容が確定

北京オリンピック期間中の8月21～24日に 11月の「第9回世界武術選手権大会」で参加資格を選抜

7月17日に中国・北京市で国際武術連盟(IWUF)の臨時理事会が開催され、来年8月に開催される北京オリンピックの期間中に実施される「2008年北京武術トーナメント」の実施内容の審議が行なわれた。

国際武術連盟(IWUF)は、国際オリンピック委員会(IOC)と北京オリンピック組織委員会(BOCOG)に申請し、繰り返し協議を重ねてきた武術競技の実施内容について、このほど、IOCおよびBOCOGと合意を得ることができた。

7月17日の国際武術連盟臨時理事会は、この合意内容を最終的に審議したうえで承認した。これにより、「北京オリンピック」武術競技の実施内容が正式に確定した。

全世界の武術界が熱望してきた同イベントの実現が決定されたことは、まことに喜ばしい。

本誌に、国際武術連盟の8月2日付けの通達を掲載するが、その概要は次の通り。

◎実施期間と会場：

「2008年北京武術トーナメント」は、北京オリンピック開催期間中の、2008年8月21日～24日に、「オリンピックセンター体育館」で行なわれる。

この「武術トーナメント」はオリンピックの正式実施競技(28競技302種目)とは区別されるが、IOCの承認のもとに、北京組織委員会が主催し、国際武術連盟が主管する「オリンピックカルチュラルイベント」として実施され、メダル(金銀銅)の表にはオリンピックロゴが入り、裏には北京組織委員会(BOCOG)のロゴが入ることになっている。

◎実施種目と参加選手数：

套路競技に男子5種目、女子5種目が、また、散手競技に男子3階級、女子2階級が設けられ、合計15種目/階級のメダルが競われる。

参加選手総数は、套路競技80人、散手競技40人の計120人で実施される。

◎参加選手は1カ国8人以内、1種目1人：

北京オリンピックの期間中に武術競技を実施する目的は、武術を全世界に一層普及し、近い将来にオリンピック正式種目を目指すことにある。この目的のために、できるだけ多くの国・地域の代表選手が参加することができるように、1カ国・地域の代表選手は、最多8人とし、1人の選手は1種目のみに参加することができることになっている。

◎参加資格は「世界選手権」で選抜：

今年11月に北京市で開催される「第9回世界武術選手権大会」の競技成績によって、「2008年北京武術トーナメント」の参加資格が選抜、決定される。北京組織委員会(BOCOG)は、2007年から2008年にかけてオリンピックの各会場で実施される各種目のプレ競技大会を“グッドラック北京”の名称のプログラムで実施するが、この「第9回世界武術選手権大会」も、“グッドラック北京”プログラムの実施種目に組み込まれ、北京組織委員会の管理のもとに実施される。

また、世界選手権大会は、本番の「2008年北京武術トーナメント」の実施会場と同じ、「オリンピックセンター体育館」で行なわれる。

◎選抜枠は、各種目の上位6位以内：

套路競技は、世界選手権で、「2008年北京武術トーナメント」に対応する種目の上位6位以内の成績を得た選手が、2008年の出場資格を獲得することができる（散手競技では、上位8位以内）。

ある国の選手が套路競技種目で6位以内に入賞したら、その選手が所属する国・地域連盟は、2008年にその該当種目に1人の選手の出場権を獲得することになる（世界選手権で入賞した選手と同一選手でなくてもよい）。

また、6位以内の出場選抜枠以外に、「大陸出場枠（ワイルドカード）」が設けられ、各種目に2人の選手が、5大陸（アメリカ、ヨーロッパ、アフリカ、アジア、オセアニア）のなかで6位以内に入賞者がいない大陸連盟から出場することができる。オリンピックの理念に基づいて、世界の5

大陸から選手が参加することができる制度を設けたものである。ただし、散手競技では安全面への配慮から、この大陸出場枠は設けられていない。

◎8月23日に日本代表最終選考会を実施：

日本連盟は、「第24回全日本選手権大会」の優秀選手のなかから17人の「第9回世界武術選手権大会」の「日本代表候補選手」を選抜した。この候補選手は、8月19日～22日に東京・本部研修センターで強化合宿に参加し、翌23日に日本連盟、関係役員、国際審判員等が出席して実施する「日本代表選手最終選考会」で、男女計10人の代表が最終的に選抜されることになる。

最終選考会では、今回公表された「2008年北京武術トーナメント」の競技種目と選抜枠を考慮に入れたうえで「世界選手権大会」の布陣を決めることになる。

国際武術連盟通達

「2008年北京武術トーナメント」の選抜方式

国際武術連盟加盟連盟 各位

第29回オリンピック競技大会北京組織委員会(BOCOG)と繰り返し協議してきたところに従い、また、2007年7月17日に北京市で開催された国際武術連盟(IWUF)臨時理事会で承認されたことに従い、国際武術連盟は「第9回世界武術選手権大会」を「2008年北京武術トーナメント」の選抜競技大会として実施します。

「2008年北京武術トーナメント」に出場することができる選手は、「第9回世界武術選手権大会」において、「2008年北京武術トーナメント」の競技種目と選抜基準に基づき、また、同世界選手権大会の競技成績に基づいて決定されます。選抜枠の規定は下記の通りとします。

2007年8月2日

注；「2008年北京武術トーナメント」の套路競技は、8種目の総合種目（2種目または3種目の得点を合計して順位とメダルを競う種目）がありますが、これらの種目においては、「第9回世界武術選手権大会」の該当する2種目または3種目を合計して最終得点が得られることとします。

記

1. 「2008年北京武術トーナメント」競技種目：

1.1 套路競技；

男子種目； ①長拳、②南拳・南棍総合、③太極拳・太極劍総合、

- ④刀術・棍術総合、⑤剣術・槍術総合
女子種目； ①長拳、②南拳・南刀総合、③太極拳・太極劍総合、
④刀術・棍術総合、⑤剣術・槍術総合

1.2 散手競技；

男子体重別階級；56kg, 70kg, 85kg

女子体重別階級；52kg, 60kg

2. 「2008年北京武術トーナメント」参加方法：

- 2.1 ひとつの国・地域は、1チームのみ参加させることができる。
2.2 武術を世界に広めて発展させる目的のために、各チームは、套路競技と散手競技を併せて、最多8種目に8人の選手を参加させることができることとする。種目は、套路10種目、散手5階級から選ぶことができる。

「2008年北京武術トーナメント」が、世界の広い範囲からの参加が得られるようにするために、各国・地域は套路の1種目につき、選手1人だけが出場できることとし、1人の選手は1種目だけに出場できることとする。

- 2.3 各チームは、最多4人のチーム役員（監督1人、コーチ2人、医師1人）を参加させることができる。その配分は下記に従う。

チームが1～2人の選手を出場させることができる場合は、1人のチーム役員だけが「2008年北京武術トーナメント」に参加することができる。チームが3～5人の選手を出場させることができる場合は、2人のチーム役員が参加することができる。チームが6～7人の選手を出場させることができる場合は、3人のチーム役員が参加することができる。チームが8人の選手を出場させることができる場合は、4人のチーム役員が参加することができる。

3. 「2008年北京武術トーナメント」選抜基準：

- 3.1 套路各種目の上位6人、散手各階級の上位8人が所属する国・地域連盟が、対応する種目／階級の選抜枠を与えられる。
3.2 套路競技において、ある国・地域連盟が選抜基準によって与えられた1選抜枠を使用しなかった場合、その選抜枠は、その種目の次の成績の選手の国・地域連盟に与えられる。
散手競技において、ある国・地域連盟が選抜基準によって与えられた1選抜枠を使用しなかった場合、その選抜枠は取り消される（次の順位の選手には与えられない）。
3.3 套路競技の各種目に各2人分の「2008年北京武術トーナメント」大陸枠参加資格（ワイルドカードWild Card）が与えられる。この大陸枠参加資格の選手数は全部で20人とする。この大陸枠参加資格の配分の原則は以下の通りとする。
3.3.1 単独種目あるいは総合種目において、参加した国・地域連盟が選抜基準による選抜枠を獲得することができなかった場合で、なおかつ、その大陸連盟も該当する種目において選抜枠を獲得することができなかった場合には、大陸選抜枠（ワイルドカード）が配分される。
3.3.2 上記の原則に該当する選手がいなかった場合は、その種目の次の成績順位の選手に選抜枠が与えられる。
4. ある大陸連盟が出場枠を全く獲られなかった場合、あるいは、極めて少数の出場枠しか得られなかった場合は、套路競技の残りの4つの大陸推薦枠（ワイルドカード）が、公平な方法で、また、競技日程の順にしたがって、これらの大陸連盟に与えられる。この場合、国際武術連盟（IWUF）技術委員会が選手を指名し、同執行委員会が承認した後に、この選手は出場枠を獲得することができる。
5. この規定で定められていない事項については、後に国際武術連盟会員連盟宛に通知される。

以上